

---

# 彼の願い、彼女の困惑

斎藤ゆうり

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

彼の願い、彼女の困惑

### 【コード】

N3388Y

### 【作者名】

斎藤ゆづり

### 【あらすじ】

憧れの人とデート、いい思い出になればいい…そう思っていたはずなのに…。

桐島由香は困っていた、太い眉を眉間に寄せ、深い谷間を刻み、唇を引き結んだ険しい表情で原因となった物質を睨みつけていた。彼女の目の前にあるのは所謂「ブレザー服」というものである、現在17歳現役高校生である彼女が制服を着る事は校則で義務づけられて居り彼女自身にとっては爪の先ほども不満に思う事ではないが、問題は彼女の在学先たる高校は「セーラー服」が指定制服だという事だ。そう、彼女を困惑させる服は彼女の高校のものではなく、また彼女が自らの意思で手に入れたものでもなかった。

「???一度だけでええんよ」

正面から掛けられた声に由香は僅かに体を震わせる。紡がれた言葉は日本語であったものの、その訛りの中には異国を思わせる響きがある。己が表情の険しさを自覚してか、少しだけ顔から力を抜いてから視線を顔事上げ声の持ち主である人物へと目を向ける。

色で言えば確かに黒であるのだが、毛先や光に透ける部分は茶色の髪。緑色の目が何かの宝石の様に爛々と輝いて由香を映している。健康的な蜂蜜色の肌の理由がよく上半身を曝け出して校庭を駆け回っているからだと知っていた。まだ幼さが抜けない他の同級生に比べて体格だけで言えば青年と呼べるであろう姿の彼の名は、織田康友と言う。名前と外見がちぐはぐなのは、彼の両親が日本へ帰化した後に生まれた子供であるからだ。

「きつと、絶対に、似合うから」

見た眼だけなら完璧な外国人、彼の両親はイタリアだかスペインだ

か、ラテン系の民族の血を引いているのだろう。穿った意見だろうが精悍さの中に甘さを含む顔立ちは女性に対して積極的だと聞く国を連想させる。由香は困惑の中に恥じらいも感じていた、不断男と触れ合う事が全くないのだ、それをこんな風に？距離にして、一メートルもない距離で見詰められて、恥ずかしくないはずがない。あの翡翠の目で見つめられたらどうにかなってしまいそうなんて言っていた友人を思い出す、どうにかなる、の意味が少し異なる気がするが、由香は今まさしくその状態だった。由香にとって彼は憧れである、眼福というものだ。大人しく引つ込み思案な由香に対し、明るく快活で社交的な織田は夢の様な存在で、決して手を伸ばし掴みたいと思う様な人物ではなかった。身の程、というものは嫌という程知っている。

「…む…無理だよ、ほんとに、無理…」

「そないなこと言わんといてえな」

自分の良いところを有効活用した表情と仕草、それに少し低い声。恋が憎悪に変わる瞬間はよくあるものらしいが、憧れが嫌悪に変わる瞬間もありそうだと人事の様に由香は思った。短気な性質ではないはずだが、逃げる事のかなわぬ状況に暴拳に出かねない心情である。

どうして、よりもよって、こんな、

「ほんまに、一度着て??」まったく、私が居ないとだめなんだから『って言うてくれるだけでええんや!」

身の程知らずも夢を見なくなる事だつてある、学校で彼にメールアドレスを聞かれて、緊張のあまり数通やりとりするのに一週間もかかった。よければどこかに出かけないかなんて、一生に一度くるかどうかのチャンスだと思った。恋人になれる筈なくとも、いい思い

出になれたらいい、なんて思っていた自分を恨めしく思う。

映画を見て、お茶をして、ちょっとカラオケでも入っちゃおうか？  
とてもエスコート上手な彼だと思ったのに、思えばカラオケが目  
的だったのだ。個室に2人きり、この状況を作り出すのが。男の子  
と2人きりで身の危険とか感じた事のない自分が悲しい、性的な警  
戒心の前に人間としての警戒心を持つべきだった。個室に入って一  
息吐くなり彼が「お願いがあるんよ」とテーブルの上に広げたのは  
ピンク色のブレザー服、思考も息も一瞬止まった。

この制服の持ち主は貴谷瑞穂と言うらしい、彼女は実在する人間で  
はなくアニメのキャラクターであると説明を受けたあたりで由香は  
一度意識を飛ばしかけた。彼女は貴谷財閥のお嬢様で勝気な性格、  
いつも刺々しい言葉を周りに放っているもそれは人より傷つき易い  
心を守る為の武装であり、一度心を許すと面倒見の良さを発揮し気  
遣い、優しさを惜しみなく与えてくれる乙女……途中から脳が記憶  
する事を放棄した為に曖昧だがだいたいこのような事を言っていた  
と思う。その貴谷瑞穂というキャラクターに、由香はそっくりであ  
るらしい。違和感しか放っていないブレザーを恭しく掲げながら熱  
く語る織田は由香にこれを着用し、尚かつ台詞迄言ってくれなどと  
罰ゲームとしか思えない願いを口にした。

攻防は二時間にも及んだが己の魅力という武器を最大限に使った攻  
撃に由香が堪えきれぬ筈もなく？…その日、まだ男を知らぬ筈で  
ある彼女は何か大事なものを失った気がして自宅のベッドでむせび  
泣いたという。

彼が本当に、ただ似ているだけで彼女に目を付けたのか、だとか、  
これから2人はどうなるかだとかは、また別の話。

(後書き)

読んでくださってありがとうございます。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3388y/>

---

彼の願い、彼女の困惑

2011年11月8日03時14分発行